

令和6年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和6年11月21日(木) 14:00～16:00
2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂
3. 出席者(敬称略)
 - (委 員) 13名
 - (事務局) [文化振興・文化財課]保坂文化企画指導監、中野副主査
[考古博物館] 高橋館長、相原副館長、浅川次長
野代学芸課長、柴田、三浦
4. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員紹介
 - (3) 会長、副会長の選任
 - (4) 議事
 - (5) 閉会
5. 会議に付した事案等について
 - 令和5年度 考古博物館事業実績について
 - 令和6年度 考古博物館事業経過・予定について
 - 考古博物館利用状況について
 - その他
6. 議事録の概要
 - 令和5年度 考古博物館事業実績について
 - ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委 員) 令和6年2月10日実施のものづくり教室「青銅鏡形チョコレート作り」について、受入上限を超える申し込みがあったとのことだが、参加者は先着順で決定したのか。

(事務局) 抽選で参加者を決定した。

(委 員) 抽選漏れの方の救済という意味でも、類似イベントを企画してみてもどうか。チョコレート以外のお菓子を利用したのものづくり体験を実施することで、子どもを中心に、多くの方の関心を引くことができるのではないか。

(事務局) 昨年度は「縄文クッキー作り」を開催した。今後も、お菓子を利用したイベントの実施を検討していきたい。

(委員) ものづくり教室の参加者の地域別の傾向を教えてください。

(事務局) ものづくり教室(子ども向けのもの)は、参加者のほとんどが県内の小中学生。国中地域からの参加が多い。ものづくり教室(一般向けのもの)は、県内と県外が半々。内容に惹かれた方が、遠方からでも来てくださる。

(委員) 可能であれば地域別データを示してもらえると参考になる。

(委員) 本日会場に来るときに利用したタクシーの運転手が、かつて風土記の丘研修センターで縄文土器づくりや火起こし体験をしたことがあると教えてくれた。昔から継続して実施しているイベントであることを感じる出来事であり、そのような方が増えれば良いと感じた。

(委員) ものづくり教室「青銅鏡形チョコレート作り」について、何人から応募があったのか。

(事務局) 100人ほどの応募があったが、抽選で51人に参加者を絞った。チョコレート作りに使用する型の個数に上限があることからすべての希望者に参加いただくことは難しかった。

(委員) 施設や設備の問題のほか、限られた人員でイベント実施するため、受入人数が限られてきていることもあると思う。

(委員) イベント企画時に集客目標は設定するのか。

(事務局) 基本的には、受入可能な最大人数を目標として設定している。開催回数を増やすことで受入人数を増やす工夫をしている。

(委員) 外国人の来館者数を教えてください。

(事務局) R4年度は141人、R5年度は243人、R6年度は9月末時点で101人の外国人来館者があった。コロナ収束後人数が増えているが、全体に占める割合は依然低く、課題だと感じている。

(委員) 適切な情報発信を行うことで来館者増加につなげてほしい。

(委員) イベントの案内はウェブサイトのみか。個別にチラシを配布しているのか。

(事務局) ウェブとチラシを公報の基本としてきたが、近年、特に学校現場では、県の意向もあり紙媒体での案内を減らす動きがあり、従来のようなチラシ配布ができない状況がある。

(委員) 学校からの案内を通じてイベントを知ることが多い。子ども達を知る機会を増やす工夫が必要になる。

○令和6年度 考古博物館事業経過・予定について

・冒頭事務局より説明があった。

(委員) 令和5年度に実施した特別巡回展は今年度実施しないのか。

(事務局) 特別巡回展は、昨年度、開館40周年事業として実施したものであり、今年度は実施しない。

(委員) 学芸員実習について、昨年度県外の大学から4名を受け入れていたものが、今年度は県内の大学生2名と減少している理由は。

(事務局) 大学からのオファーが少なかった。今後実習先として選ばれるようにするためには、長期の実習期間を確保できない学生も含めてフォローできる実施方法の検討が必要と考えている。

(委員) 特別展記念講演会について、今後YouTube等で公開する予定はあるか。

(事務局) ライブ配信及び一定期間の限定配信のみ行っている。著作権の関係もあり、再配信は難しい。

(委員) 館長講演の内容について、研究紀要等文書化の予定はあるか。

(事務局) 何らかの形で文書化するのは重要と考えている。現段階で適切な媒体はないが、委員のお知恵も拝借しながら検討したい。

(委員) 今回の特別展を観覧した際に、ちょうど学校見学で来館した子ども達だったが、楽しみ方が分からない様子の生徒もいた。どんなところがおもしろいのか、観覧前に知らせると良いと思う。

(事務局) 学校見学の際には、学校側からの要望も踏まえて案内方法を変えている。特別展ではなく常設展を重点的に見たいという学校や、展示よりも体験に重きを置きたいという学校もある中、限られた時間での対応が難しい側面もあるが、当館を楽しんでいただけるよう工夫していきたい。

(委員) 駐車場のトイレ前の掲示板にものづくり教室のPRがあり、良い取組だと思った、より目立つ掲示を行うとさらに良いと思う。

(委員) ものづくり体験について、参加者の感想等を公表しているのか。

(事務局) 過去には、参加者の声を研究紀要に掲載したこともある。今後公開する機会を作っ

ていきたい。

(委員) 古代衣装貸し出しについて、どのような利用がされているか把握しているか。

(事務局) 地域の文化祭やイベント衣装としての利用、総合学習において今と昔の衣服の違いを考える学習での利用等が行われている。

(委員) 山梨県立考古博物館の展示や活動の基本方針はあるのか。

(事務局) 常設展については、山梨県の通史的なものを取り扱うこととしている。特別展については世間での関心・注目なども踏まえて展示を行うこととしている。

(委員) この地域が「風土記の丘」に選定された際に、その中心施設として山梨県立考古博物館ができた。風土記の丘だけではなく、山梨県全体の歴史について、考古学を通じて学ぶことができる場所として開館した。各市町村関連施設を包括するハブ施設としても機能している。

(委員) 他の公立博物館では、開館時間を延ばす、夜間に特別な展示を行う、近隣施設との連携をするといった取組を行っているところもある。山梨県立考古博物館でも、公園との連携イベントが開催されているが、引き続き他の事例も参考に、地域との連携などを進めてほしい。

(委員) ボランティアガイドの実施について、この数値はガイドの数を記載しているのか。

(事務局) 協力員のうち、ボランティアガイドの資格を有するガイドの数を記載している。

(委員) 考古博物館の事業実績としては、ガイドされた側の人数を記載してはどうか。さらに、学芸員がガイドに参加した人数についても記す形にした方が良いと思う。

(委員) 風土記の丘研修センターでのイベント実施日はどのように決めているのか。

(事務局) 月 1 回の実施を基本とし、他の講演会等が入っていない時期に設定している。参加しやすい曜日設定として、子どもを対象にするイベントは日曜日に、一般の方を対象にするイベントは土曜日に実施している。

○考古博物館利用状況について

- ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

意見等なし

○全体通じて

(委員) 多くの魅力的な資料を有している博物館であるため、地震対策の必要性を感じている。県立施設の免震整備を検討してほしい。

(事務局) 県立施設の耐震化は県としても取り組んでいる。今ある建物を維持し、今後も安全に使用していくために、限られた予算の中で、個々の施設の特性を踏まえて、適切な対応を検討していく。

(委員) 職場体験について、今年度から事前審査を実施しているとのことだが、なるべく広く受け入れを実施してほしい。

(事務局) 審査を実施することで、生徒に目的意識を持って参加いただくことで、体験の質が向上している。受入を拒む目的で実施しているものではなく、今年度、事前審査を理由に申し込みを断った例はない。

(委員) 紙媒体のチラシは配布機会が減っている。発信強化のため、学校以外でも、例えばPTAを通じた告知という方法もあるので検討してほしい。

(事務局) 紙媒体の配布機会減少を補うため、様々な発信方法について検討したい。

(委員) 県内の他の施設も含めて広報方法を検討してほしい。

(委員) インターン参加者について、男女比率を教えてください。男女比に差があるか。

(事務局) 男女半々ほど。例えば、今年度の学芸員実習は女性のみだった。職場体験は、男性と女性の比率が2：1だった。男女比に差は無い状況。

(委員) 山梨県内の市町村において、土器片を誤って廃棄してしまう事例があった。土器片の取扱について教えてください。保存し続けなければならないものなのか。

(事務局) 文化財保護法等に基づき、出土品を適切に守っていく必要がある。管理方法については、国の方針や県の要綱等に定めている。国民共有の財産である出土品の廃棄は行わないというのが基本的な考え方。廃棄するものがある場合でも、県知事への報告等、取扱要項に基づいた手続きが必要となる。

出土品に対する考え方が薄れないよう、折りに触れて、県でも出土品保護の重要性を説明していきたいと思う。

(委員) 例えば、ここ数年の研究で、昔の焼け石に含まれる成分を分析すると、その当時の食生活を調べることができることが分かった。考古学資料については、重要性が低いように見えても、今後の技術の発展で、価値が変わることがあること知ってほしいと思う。

○その他

(事務局) 資料から記載が漏れてしまったが、今年度、台湾の十三行博物館との学術交流を行った。先方から、4万人規模の大規模な古代体験イベントへの招聘があり、当館から学芸員が参加した。今後も引き続き交流を続けていきたい。詳細はHPに掲載している。

以上